

## 挨拶

# 謝 辞

被表彰者代表

鈴木 元 昭



ただいま表彰いただきました鈴木でございます。僭越ではございますが、ご指名でございますので、表彰いただきました者を代表いたしまして御礼を申し上げます。また一言ご挨拶申し上げます。

表彰をいただきまして、感慨深いものがございます。これもひとえに、知財協会の役員の方々、専門委員会の方々、事務局の方々、会社の上司、同僚、部下、そして忘れてはいけない家族のおかげでございます。深く感謝申し上げます。

長い間、知財協会のお世話になりました。そして、楽しい時間を過ごさせていただきました。

私と知財協会との出会いは、いまから20年ほど前のことになります。当時、私は大病を患いまして、研究者としての仕事が出来なくなりました。ちょうど、昭和天皇がご病気になられたときです。1年ほど会社を半分休みながら、行き着いたところが「特許部」でした。

当時の特許部は、いまの知財部と違って、まったく陽の当たらない部署でした。それに、自分以外の研究者の発明を明細書にするという仕事は、実につまらないものでした。すこし、すさんだ生活をしている中、衝撃的なことに出会いました。

それは、知財協会の研修でした。Sコースの講義です。そこで出会った講師の生き様に衝撃を覚えました。知財の力が、こんなに凄いものであったのかと思い知らされました。ほんとに衝撃的でした。講師は、日本IBMの知財部長、帝人の知財部長でした。

その後、専門委員会にお世話になりました。知財管理委員会です。ここでは、目の前の世界が広がりました。私は鉄鋼業界に所属していますが、委員会には、電気、機械、医薬、食品、化学、あらゆる業種の知財マンがいました。知財活動が、それぞれの業種で大きく異なります。自分の視野が広がっていくのがわかりました。

そして、小委員会では、旅の楽しみ、宴会の楽しみを、たっぷりと味わいました。小委員会の旅行企画係を仰せつかっておりましたので、あまり行けないところに行く企画をたて、実行しました。いまでも忘れられないのが、長崎と五島列島での研修でした。

そして、2006年から常務理事、2007年から副理事長をやらせていただき、現在に至っております。知財協会の活動を通じて、多くの人と出会いました。

3月11日の大震災の日の常務理事会でも申し上げましたが、「高い地位にある人、そうでないひと。

## 本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

ものすごい実力を持っている人、そうでないひと。若い人、そうでない人」。いろんな人に出会いました。こんなに多くの人と出会えるのは、知財協会をおいて他にないと思います。

知財協会は不思議な団体です。まったく無報酬で人が集まり、無報酬で仕事をします。素晴らしいのは、その無報酬の活動を会社が認めていることです。

そして政府系統から経済的に完全に独立していることです。

全世界をみても、こんな団体はありません。韓国も中国も作りたがっていますが、簡単に出来るものではありません。

知財協会は、世界ただひとつの素晴らしい団体なのです。

なぜ、無報酬で仕事をするのか。それは、それだけの価値があるからです。ここに来れば、野中郁次郎先生のいう「暗黙知」が学べ、「実践知」を獲得できるからです。「暗黙知」を身に付け「実践知」を獲得すれば、会社にもちかえって、業務に反映することができます。そして、それを繰り返すことによって、自分の中に「経験知」が蓄積されていきます。つまり、ものすごく効率のよい人材育成が、この知財協会で行われているのです。

知財協会は、わたくしにとって「よきサロン」です。野中先生の言葉で言えば「知の場」だと思います。そうした「場」を作っていただきました先輩諸氏には、いくら感謝しても、感謝しきれません。本当にありがとうございました。

世間一般では、こうした表彰をいただきますと、そろそろ終わりという感じです。しかしながら、知財協会は違います。同じ時代をすごした仲間は、一生つきあっていく仲間です。これからも、年何回か集まり、ブラッシュアップをします。これからも楽しみです。

よき時代をすごさせていただきましたが、時代は変わりつつあります。われわれの時代は、知財がそれほど重要視されていなかった時代があり、時間に余裕がありました。

いまの知財マンは、我らの時代に比べれば、はるかに重要なポジションにあり、忙しくなっています。そうした中で、知財協会活動を行うのは、だんだん難しくなっているのかも知れません。それでも、ここに来て、自分をブラッシュアップしていただきたいと思います。また、それを上司が支えてあげてほしいと思います。

最後に、これからも会員のみなさまのお力で、知財協会をさらに発展させていただくことを祈念いたしました。御礼のご挨拶にかえさせていただきます。

本日は、本当に、ありがとうございました。